

氏名	森 美紀	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学、助産学、看護教育学				
学位	修士（看護学）				
学歴	1992年3月埼玉大学教養学部教養学科、2003年3月千葉大学看護学部看護学科、 2009年3月千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程				
経歴	2010年4月～2014年3月 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助教、2017年4月～2019年3月同左（育休代替）、 2019年4月～2022年3月 武蔵野大学看護学部看護学科准教授、 2022年4月～現在 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科准教授 2024年4月～現在 埼玉県立大学大学院博士前期課程看護学専修准教授				
所属学会（役職）	日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本生殖看護学会、 日本看護学教育学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作(著書及びその他の著作物)						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	看護のための心理的安全性	共著	あり	弘文社 280ページ	秋山美紀、石井遼介他編, 森美紀	2025.4
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	Developing self-care behaviours for lymphoedema prevention: A longitudinal comparative qualitative analysis	共同	2025 the Clinical Oncology Society of Australia (COSA) and the International Psycho-Oncology Society (IPOS) (Adelaide)		○Miyako Tsuchiya, Mariko Masujima, Akiko Kimata , <u>Miki Mori</u> , Makiko Tazaki	2025.11
2	看護系大学教員の教育活動における教育観と信念に関する文献検討	単独	第45回日本看護科学学会学術集会（新潟市）		○森 美紀	2025.12
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤C）	高年齢不妊カップルのための不妊治療に関する意思決定支援ガイドの実装研究		研究分担者	2022.4-2026.3	
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	周産期のケア	○	4	助産系（3年生17名）の必修科目・演習科目である。「健康教育」「地域での子育て（虐待予防を中心）」「退行性変化と退院後の支援」「地域母子保健・保健センター」等の講義を担当した。これまでの実務経験をもとに、具体的な例を紹介したり、学生が実習で活用できるように事例のアセスメントを中心に据えた講義にするなど工夫した。		

2	母性看護学Ⅱ		5	3年生130名の必修科目である。遺伝と看護・生殖医療と看護および妊娠期の講義を担当した。出生前診断・不妊治療に係る看護および妊娠の生理・身体・心理面、異常等について、既習の知識（性と生殖等）を確認しながら看護支援を例示し、学生が具体的に考えられるよう促した。ロールプレイを取り入れたり、適時学生に質問を投げかけるなど双方向性かつ学生が主体的に授業に参加できるよう留意した。
3	分娩期のケア		3	助産系（4年生17名）の必修科目・演習科目である。「分娩介助の意義・原理」「異常分娩と看護」の講義を担当した。視聴覚教材も活用し、既習の知識を確認しながら、看護支援について例示し、学生が具体的に考えられるよう進めた。また、これまでの実務経験をもとに、具体的な例を紹介するなど、学生が興味を持って授業に臨めるよう工夫した。さらには、関連する過去の国家試験問題を提示し、学生に問いながら双方向性となるよう留意した。

（2）演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	周産期のケア	○	17	助産師外来演習・CTG演習・沐浴演習・母乳育児支援演習等すべての演習について、総括として、各担当教員が円滑に演習を進行できるように、かつ、学生の学習が充実するよう、適宜助言するなどした。模擬集団健康教育は、1Gを担当（教員2名）し、学生が主体的に取り組み、模擬健康教育を実施できるよう助言しながら、科目責任者としての統括を行い、GWや発表会が円滑に進むよう努めた。
2	母性看護学Ⅱ		4	3年生130名の必修授業である。進行性変化と母乳育児支援の演習の副担当として演習の進行を助けた。学生の主体性・自主性を尊重してロールプレイできるよう、適宜助言しながら進め、疑問・質問に対応した。
3	分娩期のケア		27	内診演習では、副担当として演習の進行を助けた。また、学生の主体性を尊重しつつ、技術習得に向けた助言をするよう努めた。 分娩介助技術演習および技術試験について、主担当として学生の主体性や積極性・自主性を重要視して取り組んだ。分娩介助技術については、デモンストレーションの実施や動画視聴を活用した。演習以外の自己練習においても、対面だけでなくTeams等のコメント機能を活用し、学生の疑問・質問に対応し、学生の練習が円滑に進むよう心がけ、分娩介助技術演習（練習）全体を統括した。 また、助産過程ではGWにて1Gを担当した。 総じて、助産学生として、対象者に寄り添い、思いやる気持ちを大事にできることの重要性を伝えることに留意して関わった。
4	遺伝と看護		7	出生前診断を受けた夫婦の事例をもとにPBL形式の演習を1G担当した。意見交換が活発となるよう適宜助言するなど学生の主体性を尊重しながら関わった。

（3）実習

	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	助産学実習Ⅰ	○	2025年5月～6月	助産系（4年生17名）の必修科目である。市区町村保健センター等4施設において、学生が、地域で暮らす母子だけでなくその家族にも目を向けて支援を考えられるよう、また、地域と病院との連携の必要性に気づき、助産師の地域での活動が具体的にイメージできるような関わりを重視した。科目責任者として、実習が円滑に進むよう、施設と調整した。 学内カンファレンスでは、5～6名×2Gを担当し、学生間の実習体験の相違からの学びの共有を重視して関わり、限られた期間の実習の学びが最大限となるよう支援した。

2	助産学実習Ⅱ		2025年8月～9月	産科病棟での実習を2施設（3名×1G、2名×1G）担当した。1施設は非常勤教員の支援が主であったが、実習が円滑かつ学生にとって最大限の学びとなるよう、施設と調整した。また、助産師学生としての倫理観と責任感を意識して学べるよう、かつ、思考の整理や技術の獲得について支援した。	
3	母性看護学実習		2025年5月～6月	2施設の病棟実習を担当した。1Gあたり5～6名の学生が円滑に実習できるよう、施設との調整を密に図るよう努めた。また、母子の健康状態だけでなく、愛着形成の視点も大切にしたい関わりができるよう支援した。	
4	総合実習（母性看護学領域）		2025年7月	病棟・外来実習を1施設1G4名を教員2名体制で担当した。日々のカンファレンスおよび学内カンファレンスも含め、母子にとっての最良の支援かつ退院後の地域での生活を見据えた支援が考えられ、かつ、最大限の学びとなるよう、指導者と連携して支援した。	
5	IPW実習		2025年10月	1施設1G6名を担当した。教員FTとして施設FTとの密な相談・調整を心がけた。学生個々の専門性に目を向けつつも、相手を尊重して関わることの重要性に気づけるような関わりを意識し、学生が主体的に活発な討議ができるよう支援した。	
（4）論文指導					
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数		
1	卒業論文	2025.4-12	主指導	3名	副指導 0名
2	修士論文	2025.4-2026.3	主指導（指導教員）	0名	副査 1名
（5）その他					
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
	該当なし				
4．社会貢献活動					
（1）講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月	
1	CLoCMiPレベルⅢ必修研修 講義	さいたま市立病院	専門職的自立能力 後輩指導・助産師教育	2025.10	
2	リアル体験教室 「看護師になりたい」	埼玉県青少年課	小学5～6年生 30名	2025.11	
3	非常勤講師	川口市立看護専門学校	「論理学2」：試験含め8コマ担当 2事例を用いたグループ学習	2026.1～3	
4	ベビーマッサージ講師	越谷市児童館ヒマワリ	生後3か月～8か月児のベビーマッサージ教室	2026.3	
（2）国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期	
1	越谷市 人権・男女共同参画推進課	男女共同参画推進委員		2023.7～現在	
2	日本母性看護学会	学術支援委員		2021.4～現在	
3	日本母性看護学会	第27回学術集会実行委員		2025.6	
（3）ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称	内容			年月
1	該当なし				
（4）その他					
	項目	相手方等	内容		期間
1	該当なし				
5．学内運営					
	項目	内容			期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	カリキュラム検討部会			2024.4～現在
2	学科等における委員会等	看護学科 カリキュラム運営検討会			2024.4～現在
3	学科等における委員会等	就職支援担当者会			2022.4～2026.3

4	学生支援	4年生担任	2022.4～2026.3
5	学生支援	進路・学習・学生生活の個別相談	2022.4～2026.3
6	大学広報活動	オープンキャンパス学生相談担当	2025.8
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		